

さいたま新聞では

北の俳人を論ずる

岩手の川村さん 評論集を発行

岩手県盛岡市在住で、俳誌「鬼」（復本一郎代表）誌友の川村香平^{ようへい}さんが、これまで発表した俳人・歌人論をまとめた評論集「鬼古里^{おにこり}の賦」（コールサック社）を刊行した。

「北の俳人列伝」として、同県出身や同県で活動した俳人などを取り上げ、岩手の豊かな文学風土を紹介している。

評論は、岩手の文芸誌「北の文学」（岩手日報社刊）、川村さんも同人の俳誌「草笛」などに発表した。取り上げている俳人は盛岡市出身の山口青邨、角川俳句賞を受賞しながら35歳で亡くなった山崎和賀流^{わがりゅう}、戦後の岩手の俳句活動を牽引してきた田村了咲^{りょうさく}、遠藤梧逸^{ごいつ}など。歌人は主に、川村さんと交流のある現在活動している歌人を取り上げた。

同県の風土や歴史を背景にしながら、その俳人や歌人の足跡に即し俳句や歌を丁寧に論じている。このほか、「俳句の未来」をテーマに、盛岡市の俳誌「樹氷」主宰の白濱一羊さんとの対談を掲載している。

川村さんは、栃木県宇都宮市出身。著書に、同県出身で、埼玉県歌人会副会長を務めた大西民子さんの岩手時代の足跡を紹介した「無告のうた」がある。また、盛岡市内に大西さんの歌碑を建立するため、尽力した。

（佐藤達哉）

と紹介されています。